

2017年

229号

6月21日(水)

ねんきん越谷

全日本年金者組合越谷支部

〒343-0845

埼玉県越谷市南越谷2-13-49

(越労連内)

TEL・FAX 048-989-2472

E-mail keyaki-n@biscuit.ocn.ne.jp



望一ムの肉が休場やがし初溪目るの
台目「の次おいのタ憩ふか連の中夏谷につ
「見の工に。い。葉で。さ。道。に。の。に。あ
放渡事ハハ。し。味。と。の。の。の。ち
台渡ハッハ。し。味。と。の。の。の。こ
「見の工に。い。葉で。さ。道。に。の。に。あ
放渡ハッハ。し。味。と。の。の。の。こ
台渡ハッハ。し。味。と。の。の。の。こ

新越谷駅西口を出発。一路外環から関越の渋川を目指します。吉田支部長がいつもながらの名ガイドぶりで参加者の心を掴んだ後、初めての顔合わせの人もいるので自己紹介。昭和27年に国によって計画され、紆余曲折の後平成27年にダム本体工事が始まるという長期間の日数がかかっているダムの役割とは何かについて、「ハッ場ダム建設事業の検証に係る報告書に対する意見」を和田さんがバスの往路で説明。ダムの役割を治水、利水、環境面からの話でした。そうこうする内にバスは渋川伊香保ICで高速を降り一般道へ。渋川市内を抜けると太陽光パネルが集団で設置されているのがあちこちで目についた。吾妻渓谷に近くなると初夏の暖かい陽射しの中に緑の山々が連なり気分も爽やか。道の駅「ハッ場ふるさと館」で休憩。浅間酒造セリターで昼食。豚肉の朴葉味噌焼きがおいしかったとの声。次に「ハッ場」の工事状況が一目で見渡せる展望台「見放台」へ。

日帰りバス旅行
ハッ場（やんば）ダムは
水量不足に？

6月12日(月)、日帰りバス旅行を2年ぶりに実施しました。今回はダムに沈む町、群馬県長野原町に建設中の「ハッ場ダム」を見に行くというものです。参加人数は28名、40名の募集には届きませんでした。その代わりゆったりとしたスペースで快適な旅でした。

何故か「見放台」では晴天。上からは眺める。川下には流れが、その周りが、川に巨大なクレーンが作業中、大きなタンクを貯める。立ち並び、発電所の建設現場は両岸にコンクリートの高さを張っている。見放台の工事の進捗は始めてから2年、まだここ1割の進捗だそう。ここに水がいつぱいになるのに、川筋でこの間に水がかかるのか。極め付けは帰りのバスの中でどなたかが述べられていた感想。ダムは完成しても耐用年数というものが、あり、それを過ぎると安全ではなくなる。ために壊さなくてはならない。そのための費用がまたかかるとはならない。そのためのばいばいというものはある。原イクルで評価すべきでしょう。バスの中、鈴木とし江さんのお菓子、伊東正人さんのヤクルト、吉田健治・和子さんのとれたての新じゃがの塩ゆでと焼酎の差入れがありとう。その他の持ち込みのお酒、途中の休憩で買い込んだ地酒とつまみなど、バスの後部座席は盛り上がり。今回は解散時刻を早くするために途中の温泉入浴は諦めました。次回には風呂付で昼食を2時間くらいゆっくりと、という企画を取り組みたいと思っております。6時15分出発地解散。皆さん、お疲れ様でした。(五十嵐)



「老人はすぐキレる」と言われることがある。確かに言葉の使い方や身の回りのことなどで些細なことにこだわって言い争いになったり、怒ったりすることがあるからだろう。冷静に考えて自分のしぐさの誤りを直すのではなく「そんなことわかってるよ」などで口論に。一方、「日本人は怒らない、もつと怒るべきだ」と言われることもある。世の中で起こっているいろいろな事件、ニュースを知っても「他人事だ」と思って無関心、無反応の態度を嘆いての言葉。一方は「キレないで、怒らないで」他方は「もつと怒れ」。「身近な些細なことには怒らない、世の中のことはもつと怒れ」ということ。世の中のこと政治、経済、外交、防衛などで不合理、不公平なこと、上に立つ者の横暴な態度、強引なやり方に目を向け、ひどいと思ったら態度で表そう、国会に押しかけたり集会やパレードに参加することも、それがだめなら周りの人に話しかけたり、話題にしていこう。「年金減額は私の暮らしを苦しめている、憲法違反だ」と裁判で闘っている原告の人たちは、他人事ではなく私の身代わりで発言してくれている。この裁判の行方で年金の将来が変わってくる。

最近のニュースで「森友学園」「加計学園」の国有地の破格価格購入の話は回りまわって私たちの税金の無駄使い、年金や社会保障全体にも影響する、他人事ではない。沖縄の辺野古海岸埋め立て米軍基地強行建設、自衛隊員の南スーダンからの帰国、築地市場の豊洲移転か築地の整備か。沖縄の人たちだけ、自衛隊員の家族だけ、都民だけの問題ではない。将来の自分たちの子や孫の安全、食品の安全の問題がかかわってくる。昔の「木枯し紋次郎」の「あつしには関わりがねえこととござんす」の言葉は今でも政府が望んでいるのかも知れないがそんなことに乗らないようにしよう。(樋口 昭男)

点晴

怒るなら些細なことではなく世の中のニュースで